

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

| | |
|-------|--------------------|
| 施設名 | 永山駅前こどもの家 |
| 施設所在地 | 多摩市永山1-4 グリナード永山4階 |
| 法人名 | 株式会社ライフケアサービス |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

0歳児から始める毎日の英語レッスン！

<テーマの設定理由>

週に1回や月に1回、英語のレッスンを取り入れている園は多いが、毎日0歳児クラスから英語の時間がある園は、まだそんなに多くはない。毎日英語に触れると、何でも吸収できる乳幼児に、日々の生活の中でどのような影響があるのかを見てみたいという思いで考えた。また、国際化が進んでいる今、クラスに複数名外国籍の子どもが存在する時代になり、多様な文化に触れる機会を多く持つことは子どもにとって有意義な時間になると思う。

2. 活動スケジュール

各クラス、講師勤務日はレッスンを1回は行う。また、レッスンの形式をとらず、保育の活動に入り、英語で語りかけてもらう。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

英語講師・CDデッキ・CD・英語の絵本

年齢に応じたレッスンカリキュラムを設定してもらい、歌・絵本・手遊びなどを楽しめるように保育者も一緒に楽しむ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

0才～毎日レッスンを行うと共に、日常生活の中に入り込み英語で語りかけてもらうことで、英語をより身近に感じ、英語がどのような場面で子どもたちから自発的に表出するのか探求する。また、ハロウィン・クリスマス・サンクスギビング等の行事や文化は、異文化に触れる貴重な経験と捉え、保育者も一緒に楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

0才：英語の講師が保育室に入ってくると、興味を示し講師の近くに座る子・距離を置いた場所から注目する子と様々な様子。音楽が聞こえてくると、玩具を持ったままでも体を揺らす姿が見られた。後半になってくると、講師が見えると玩具を片付ける姿も見られるようになり「英語の時間」がわかる子も出てきたように思う。身振り・手振り、講師の真似をしたり、歌の語尾を言ったり、表現しようとする姿があった。

1才：0才の後にレッスンすることが多いため、隣のスペースで0才のレッスンを見たり、聞いたりしている。保育者に「ABCやる？」と聞き、期待を持っている子がいる。「終わりの歌」が聞こえると、前半は保育者の声かけがあってから片付けていたが、後半になると、自ら気づき自発的に片付ける姿がみられた。知っている手遊びや歌には積極的に取り組む姿がある。集中力が途切れてしまう子もいるが、音楽が聞こえるタイミングや歌が始まるタイミングでまた、注意が向くことが多い。振りを覚えて一緒に踊る子、照れてしまう子がいる。

2才：「英語の時間」として設定をして、レッスンを行う。

シーズンによって、テーマを決め1か月テーマに沿ったレッスンを行う。(例)7月:海・アイスクリーム・浮き輪 10月:ハロウィン 12月:クリスマス など

他にも、天気や色・気持ちなども季節テーマにからめて伝えてもらった。また、保育の食育にも参加してもらい、食材を英語で伝えた。給食時に食材カードを指さし、「rice」「tomato」と発音し食べている姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

0、1歳児クラス

回を重ねるごとに自然と講師の周りに座り、知っている曲が流れると身振り、手振りで曲に合わせて体を動かすようになっていった。歌える子は語尾を歌ってみたり、聞こえたように発声してみたりするようになった。また、英語の絵本も好きで、保育の中に入ってもらうと、膝に座って絵本を読んでもらうこともできた。

2歳児クラス

英語講師が保育室に入ってくると、自ら使っていた玩具を片付け、講師の前に座るようになった。習慣になり、新しい歌やテーマが変わると「あれ？変わった？」「新しい！」と変化に気づき、挨拶の歌は、歌詞を覚え自信に満ちた様子で歌っている姿が出てきた。日常保育の中でも、英語講師になりきり、ぬいぐるみを並べ英語ごっこをする子がいたり、好ましくないことをやった子に対し、「No!」と注意したりと、英語が身近かな存在になってきた。保護者からも買い物中に野菜売り場で、「tomato」「spinach」等英語で話してびっくりした。と声があった。生活に英語がある環境は、英語脳を育てることに一役買っていると実感した。